## 『ワールドカフェ「質的研究にたいするとまどい」を語ろう』成果報告

研究交流委員会では、日本質的心理学会第 14 回全国大会 (9/9-10) のプレ企画として、2017 年 9 月 8 日 (金) にワールドカフェを企画・開催しました。タイトルは『「質的研究にたいするとまどい」を語ろう』です。



場所は大会とおなじ首都大学東京・荒川キャンパス。会場は 464 教室でした。

はじめにワールドカフェホストを担当した研究交流委員が、イベントの趣旨や進行を説明しました。



# ワールドカフェとは

- ◆街中のカフェのような<u>リラックスした雰囲気</u>のなかで テーマに集中した話し合いをします。
- ✓メンバーの組み合わせを変えながら、4名の小グループで話し合いを続けます。その結果、<u>あたかも参加者全員が話し合ったかのような効果</u>を得られます。

#### ワールドカフェとは?

アニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスが 1995 年に開発した話し合いの方法です。ワールドカフェには、街中のカフェのように多様な視点や経験を持った人たちが集まります。テーマについて、リラックスした雰囲気のなかで自由に発言し、他者の話にもしっかりと耳を傾けます。お互いを尊重して聴き合い、話し合うことで、自分が出会えなかった体験を知ったり、新たな見方・捉え方に気づいたりすることを通して、新しいアイディアが生まれたりします。また、参加者同士の相互理解も図ることができます。

参加者のみなさまにカフェのようなリラックスした雰囲気を感じていただけるように、飲食物を用意 しました。





ワールドカフェは"3つのラウンド"と"まとめ"で構成しました。

## 第1ラウンド:問いについての探究

今回のワールドカフェのテーマである「質的研究でどのようなことにとまどいを感じているのか、感じた経験があるのか」を自由に話しあってもらいました。その際、模造紙を自由に使いながら進めてもらいました。

自分の研究テーマ、方法論、悩んでいること、とまどっていることなどが語られました。



## 第2ラウンド:アイディアを他花受粉する

各テーブルに一人だけ「テーブルホスト」を残し、ほかの参加者には「旅人」になって、他のテーブルに移動してもらいました。テーブルホストは第1ラウンドでどのようことが話し合われたかを旅人に説明し、説明を聞いた旅人は、自分がいたテーブルでの話し合いの内容を紹介しました。

わきあいあいとした雰囲気で楽しそうな様子でした。





## 第3ラウンド:集合的な発見・知を統合する

旅人にはもとのテーブルに戻り、旅先で得たアイディアを持ち帰り、話し合いを続けてもらいました。その際、「質的研究にとまどいを感じているのに、なぜ私たちは質的研究を行うのか」について話し合ってもらいました。密度の濃い議論が展開します。



## まとめ・全体セッション:集合的な発見・知を収穫し、統合する

ワールドカフェホストがファシリテーターになり、参加者全員で対話を行い、得られた考えを共有 しました。とくに「自分にとっての質的研究の意味となにか」「ワールドカフェで最も印象に残ったこ と」を付箋紙に書いてもらい、模造紙に貼り付けてもらいました。



参加者のみなさまがさまざまな考えを披露してくれました。活発な質疑応答がなされ、これまでのラウンドでテーブルが一緒にならなかったかたとの対話も生まれます。

"ワールドカフェに参加して印象に残ったこと"として、参加者のみなさまが挙げてくれたことをいくつか紹介します。

「研究法や結果の解釈等の妥当性について皆さん同じように悩み戦っていること」

「いろいろな意見、考え方、視点、研究について触れさせてもらった。」

「新しい分析方法や研究プロセスについてお話を伺えたのが参考になりました。」

「自分の分野以外の研究を聞くことがとても刺激的でした。」

「同じようなことでとまどっている。が見方が少しずつ違う、その違いが自分の見方を問い直すきっかけとなりためになった。」

このように、研究やその方法論について問いなおす有意義な時間を過ごしていただけたことがうかがえます。その一方で、"話し足りない、もっと話したい"という声も聴かれました。また、"結論がほしい!"との切実な声もありました(ワールドカフェは必ずしも結論を導くことを目的としていないことに由来します)。それぞれの方が、納得のいく"結論"に到達するために、対話の場が求められていることを感じました。

#### おわりに:企画担当の委員より

- ・ 「当日はカフェホストとして、進行を務めさせていただきました。時間の都合上、みなさんの議論が白熱したあたりで次のステップへ移っていただくようお願いしなければならなかったことを申し訳なく思いました。が、未消化のもやもやした感をぜひ周りの方や研究仲間の皆さんとの議論(そして、次回のワールドカフェへ?)につなげていただければと思います。今後もこのような根源的な問いを真正面から話し合う機会を何らかの形で継続して持てることを期待しております。」(研究交流委員 福永由佳)
- ・ 「当日は、私も参加メンバーの一人として、グループに加えていただきました。途中のグループメ

ンバーの入れ替わりや最後の全体セッションにより、グループで思いを交わした方たち以外のみなさんとも、対話する機会をもつことができました。学会発表や論文執筆とはまた異なるかたちで、質的研究について考え、意見を交わす場になったと思います。と同時に、今回のワールドカフェを通じて得られた新たな視点や再認識した問いの数々を、今後にどうつなげていくかが問われているようにも思いました。」(研究交流委員 瀬地山葉矢)

以上